

会員 だより

地域に根ざした社会貢献を!

当社では、社会貢献の一環として、所在地の宜野座村を南北に走る国道 329 号の、北は名護市久志との境界から南は金武町中川の境界までの全区間約 8 km を、平成 15 年頃より年 2 回程道路清掃を実施しております。



天気にも恵まれ作業もはかどりました!

仲程土建株式会社
代表取締役社長 仲程 俊郎

今年も去った 5 月 26 日(土)に梅雨時期にもかかわらず好天に恵まれ、社員 40 名程が参加して道路沿いの清掃活動を行いました。
また、社屋前の道路は、村内の小・中学校や高校の通学路となっており、プロ野球阪神球団の春のキャンプ地にも隣接しており、キャンプ期間中は県内外から大勢の方々が訪れます。清々しい気持ちで、通学やプロ野球見物ができるよう、朝の道路清掃に努めております。



心地よい汗!お疲れ様でした!

会員 だより

復帰40周年を迎えて!

復帰当時、私は高校2年生、住宅は那覇市与儀に有り、与儀公園や那覇市民会館を近くで見る事が出来ました。復帰の日は天候が悪く、大雨の中物々しい警備の中、市民会館に於いて復帰記念式典が挙行され、その隣の与儀公園では本土復帰反対抗議集会が行われ騒然とした状態が続いていた事が記憶に残っています。

あれから40年、復帰によって変わったもの、変わらないものについて考えてみたいと思います。前者は、四次に亘る振興計画が本土との格差是正を目標に推進され、インフラや産業基盤などの社会資本整備で多くの成果があり、県民生活の向上や経済発展に大きく寄与しています。後者では、米軍基地や日米地位協定等で、県民は戦後から今でも同じ苦しみを背負っています。又、一人当たりの県民所得は全国平均の70%に留まり、失業率は7~8%と全国に比べて高い水準にあります。

沖縄 21 世紀ビジョンが策定され一括交付金も創設されました。事業に活用できる計画案をしっかりと策定し、実現可能な政策の中身をつくる事こそが問われる事となります。沖縄の建設業発展のために会員全社で力を合わせて頑張ってください。



【写真】琉球政府発注「那覇市安里交差点高架橋工事」(完成 1970(S45)年)



南洋土建株式会社
代表取締役社長 比嘉 森 廣



①第69回 道路美化・清掃活動

活動報告・ トピックス



② 第30回 道路技術講習会

あれ!意外と少ないぞ!

今年度2回目、通算69回目の道路美化清掃活動を、復帰記念日の5月15日(火)に行いました。当日は、野田総理も出席し復帰40周年の記念式典がコンベンションセンターで開催されたことから、事前に南部国道事務所の維持業者による植栽帯の剪定や清掃が行われていた事もあり、拍子抜けするほどゴミの量が少な目でした。【写真】「何時でも綺麗な道路であれ、ゴミは復帰しないで」と祈るばかりです。

今月は、6月19日(火)、前半Gの番です



少なめ?手抜きはしていませんヨ!

●活動参加状況(後半グループ)

1	(株)高橋土建	2名
2	仲程土建(株)	1名
3	(株)南海建設	2名
4	南部舗道(株)	1名
5	南洋土建(株)	2名
6	日本道路(株)	1名
7	(株)NIPPO	1名
8	前田道路(株)	0名
9	牧港建設(株)	1名
10	(株)丸元建設	2名
11	(株)丸政工務店	2名
12	(株)屋部土建	1名
13	琉球開発(株)	1名
計	参加社 12社/13社	16名



今月の主な活動予定

- 6月1日(金): 第34回定時総会(15:30~)
: 意見交換会(17:00~)
: 懇談会(18:30~)
(於): ザ・ナハテラス
- 6月19日(火): 第70回道路美化・清掃活動
前半グループ
- 6月24日(日): H24年度舗装施工管理技術者試験(於): 沖縄大学

自己研鑽のため熱心聴講!

第30回技術講習会を5月24日(火)の午前中、浦添市産業振興センター結の街3階大研修室に於いて開催しました。

今回の研修は、沖総局開建部技術管理課の全面協力で実施する事が出来ました。課題は、次の3課題で、與儀基準専門職、新垣技術調査係長及び下地補佐の3氏によりそれぞれ説明が行われました。

- 1) 施工パッケージ型積算方式について
- 2) 土木工事積算基準の改正
- 3) 総合評価方式の変更等について

CPDSの認定は2Pとなっております。

なお、本講習は、参加申し込みが25社94名でしたが、当日の参加社は21社75名で、欠席者が多く、約8割の参加率でした。各社、忙しいとは思いますがなるべく都合をつけて参加下さい。また、不明な点や質問等については支部事務局へ問い合わせ下さい。

熱心に聴講!



寸記

沖縄は今年5月15日に本土復帰40周年を迎えました。この間沖縄には約10兆円以上の予算が投下され、ダムや道路、港湾・空港等の社会資本の整備を主体に、本土に追いつけ追い越せという本土との格差是正を掲げ、国主導の振興計画が推進されてきました。その結果、沖縄は復帰前とは比べものにならないほど発展し、県民生活も驚くほどに向上しました。しかし、まだまだ自立したとはいえず、解決すべき課題も多く残っています。

さて、今年度から、これまでの国主導から沖縄県が主導する新たな振興計画及び自由度の高い一括交付金制度もスタートしました。これは、沖縄の真の自立は県民自身が創り上げて行くという事に他なりません。ウチナンチュ魂で頑張ってください。